

第 119 回講演大会

第 119 回講演大会は 4 月 3 日から 5 日の 3 日間まだ桜の花が残る東京工業大学大岡山キャンパスで開催された。

講演大会 講演件数は製鉄部門 65 件、製鉄・製鋼共通部門 50 件、製鋼部門 120 件、萌芽・境界領域部門 89 件、加工・システム・利用技術部門 135 件、分析・表面処理部門 76 件、材料の組織・性質 166 件 計 703 件の研究が 18 会場に分かれ発表され、各会場活発な討論がなされた。

討論会 一般講演のほかに次の 6 テーマの討論会が行われた。

1. 「高炉下部におけるコークスの挙動」
座長 山岡洋次郎 副座長 岩永 祐治
2. 「極低炭素鋼・低窒素鋼の精錬技術の現状と課題」
座長 佐野 正道 副座長 藤井 徹也
3. 「表面処理鋼板の成形性」
座長 林 央 副座長 角山 浩三

4. 「有機材料の構造解析」

座長 岩田 英夫 副座長 小池 俊夫

5. 「重防食被覆鋼材の耐久性評価技術および寿命推定法」

座長 市田 敏郎 副座長 吉田耕太郎

6. 「ステンレス鋼における組織制御と材質」

座長 細井 祐三 副座長 根本 力男

創立 75 周年記念祝賀会 創立 75 周年記念祝賀会は 4 月 3 日午後 6 時より高輪プリンスホテル“プリンスの間”で開催された。鈴木朝夫東京工業大学教授司会のもと、八木会長、森田新会長、東京工業大学学長末松安晴教授の挨拶があり、本会名誉会員吉崎鴻造氏の乾杯で始められた。

祝賀会は招待者を含め 300 名の参加者が着座し、なごやかな雰囲気のもと、歓談がくりひろげられた。

ジュニアパーティー 4 月 4 日午後 5 時 30 分より東京工業大学内食堂で開催され、若手研究者、技術者を中心に懇談がなされ親交を深めた。参加者は 170 名であった。

コ ラ ム

“夢”再募集

1988 年 9 月号 (Vol. 74), p. 1888 で、鉄鋼研究に関する“夢”を募集したが、今のところ、応募者は皆無とのことである。その理由として、(1)忙しくて、“夢”などにかまっていられない。まして、書面に書いて投稿する暇はない。(2)この記事を読んでいない。(3)公表するような“夢”を思いつかない。(4)真似されたくないの、公表しない。などが考えられる。

応募が少ないのは、予想どおりとはいえ、一つくらいはあるのではないかと期待していたが、皆無とは残念なことである。読者諸兄が実際には多くの夢を持っておられるのであれば心配ないが、夢がなくなってきているとしたら、ゆゆしき問題ではなからうか。鉄鋼基礎共同研究会のテーマなどにしても、関係者は良いテーマさがしに苦労しておられるのも、この反映でなければいいのだが……。

いずれにしても、我々は、たとえ人に言えなくても、皆なんらかの“夢”を持っているはずである。例えば、規模の大きい夢としては、設備的、技術的に不十分で、地球資源、環境上からも種々の問題のある開発途上国の鉄鋼産業の合理化、発展への貢献がある。これは技術のみならず、政治と経済を含む総合的な問題であるが、地球的な視点に立ってのプロジェクトや研究に挑

戦したいものである。また、寸法は小さいが、大きな夢としては、相変化における核生成制御法の確立がある。近年における、原子レベルでの種々の分析手法の発展により、核生成機構の解明にかなり肉迫できるところまで到達している。従って、新たなプロセッシングと組み合わせることにより、異質核生成を制御できれば、材料の性質を飛躍的に改善できるであろう。

この他、凝固によらぬ合金化法であるメカニカル・アロイング、ナノ寸法の組織を有するナノ材料の創製、金属と有機材料がよりミクロに複合化した材料、超塑性材料、超耐食性材料などの開発、等々、皆さん、自分なりの夢をもっておられるに違いない。

ある人にとっての夢が、他の人にはつまらない夢であることは少なくない。逆にすべての人にとっての夢は非現実的なものがほとんどである。自信がなくても、夢がないと思われるより、“面白い、面白い”と繰り返し唱えていけば、本当に面白い夢になるのではなからうか。また若い人達を元気づけることにならなからうか(もっとも一人よがりになっては困るが)。諸兄のご意見を御伺いしたいものである。

If you don't have a dream, how are you going to make a dream come true? (Oscar HAMMERSTEIN II)

(大阪大学工学部 大中 逸雄)